



学院史編纂室便り

NO. 50 (2019.10.25)

関西学院大学 学院史編纂室

★グリークラブ創立120周年、「ウ・ボイ」伝承100周年記念式典と記念フェスティバルの開催



本年(2019年)、関西学院グリークラブは創立120周年を迎えました。と同時に、演奏会に欠かせない名曲「ウ・ボイ」(クロアチアの国民的オペラの中の一曲)が、船の修理のため神戸に滞在していたチェコ・スロバキア軍兵士から伝えられて100年になります。それらを記念する式典が、9月15日、関西学院発祥の地、原田の森に今も残る旧ブランシ・メモリアル・チャペル(現・神戸文学館)で催され、現役部員やOB約100人が出席しました。式典では、広瀬康夫さんの指揮により「ウ・ボイ」が歌われたほか、記念プレート【写真左】が設置され、オリーブが植樹されました。さらに、9月29日には、上ヶ原の中央講堂にクロアチア大使、チェコ大使、スロバキア参事官を迎え、記念フェスティバルが盛大に開催されました。

グリークラブと「ウ・ボイ」については、時計台2階(大学博物館内)の学院史編纂室ミニ展示コーナーでも紹介しています(記念プレートのレプリカもぜひご覧ください)。

★『ベーツ宣教師の挑戦と応戦』出版記念講演会の開催

C. J. L. ベーツ第4代院長の言葉と写真を集めた『ベーツ宣教師の挑戦と応戦』(監修:ルース・M・グルーベル第15代院長)の出版を記念し、10月14日に大学主催講演会が開催されました(共催:第52回関西学院史研究会、共通教育センター開講「『関学』学 関西学院の歴史」)。講師の神田健次名誉教授は、100点以上の写真を使って、ベーツが出会った人々とのつながりを中心にその生涯と思想を紐解かれました(講演タイトル「C. J. L. ベーツ宣教師の生涯と思想」)。H号館301号教室には、授業履修者のほか、卒業生や研究者等、約300人が集まりました。



★特別展「ひょうごの人々と近代中国 ～ジャーナリスト太田宇之助の見た中国と孫文～」の開催

11月2日から12月1日まで、孫文記念館(神戸市垂水区)で開催される標記特別展で、明治時代に関西学院普通学部で学んだジャーナリスト太田宇之助(1891～1986)が紹介されます。太田は、戦前に中国専門記者として活躍し、孫文とも深い縁がありました。11月3日の特別講演会「忘れられた稀代の中国通ジャーナリスト太田宇之助と日中友好の夢」(島田大輔早稲田大学社会科学総合学院講師)では、『母校通信』に太田が書いた記事も紹介されます(FAXかメールにて要申込み)。

★大学図書館主催特別展示への資料提供

第26回関西学院大学図書館学術資料講演会(「関学発、「神戸の詩人さん」竹中郁の戦前・戦後」、11月29日、大橋毅彦文学部教授)に合わせ、11月1日から12月6日まで、大学図書館特別閲覧室展示ケースに、竹中郁に関する資料が展示されます。在学中、絵画部弦月会でも活躍した竹中の油彩画(経済学部卒業生所蔵)【写真右】のほか、学院史編纂室所蔵資料も展示されますので、ぜひご覧ください。



★企画展「関西学院の130年」開催中!

9月28日～12月14日、大学博物館(西宮上ヶ原キャンパス)